

# 文化遺産ニュース

*Cultural Heritage News*  
from NARA

Vol.  
**27**

March 2015

◎ 集団研修	1
◎ 文化遺産ワークショップ (バングラデシュ・ダッカ)	2
◎ 個人研修 (バヌアツ)	3
◎ 個人研修 (ブータン)	4
◎ 国際会議「木造建造物の保存理念を再考するー木造建造物のある文化的景観と地域社会ー」	5
◎ 文化遺産国際セミナー「木が伝える奈良の文化財」／世界遺産教室	6

バングラデシュの文化遺産



# 集団研修

2014年9月2日から10月3日まで、アジア太平洋地域の16カ国から16名の研修生を招き、「遺跡・遺物の調査と保存」をテーマに研修を実施しました。



開講式

16名の研修生は、それぞれの国で政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の保護、管理、修復などに携わっています。研修は、考古遺物の調査、保存修復、管理活用に焦点をあてて最新の方法・技術を習得することを目的に実施しました。

開講式では、主催者であるACCU、文化庁、ICCROM、国立文化財機構の各代表が挨拶した後、来賓の奈良県、奈良市からもご挨拶をいただきました。

研修では、文化遺産保護制度や考古学に関連する科学分野の講義だけでなく、研修生それぞれが、自国の文化遺産保護に関わる実情を発表し、その内容について、研修生同士で意見交換を行いました。



イクロム講師による講義



グループ討議

遺物の記録方法では、実際に土器を実測し、遺物の観察方法や図の描き方を習得するとともに、拓本による記録の取り方も実習しました。このほか、博物館業務として欠かせない遺物展示の実習では、2グループに分かれて遺物をレイアウトし、それぞれの展示理念や方法について、意見交換をしました。



展示実習



拓本実習

また、臨地研修では、奈良県内をはじめ、各地の遺跡や文化財関連施設に赴くことにより、遺跡整備や遺物の管理・公開の実際を肌で感じ取ることができました。

## カリキュラム(概要)

**講義**  
「遺跡保護の国際的動向」「日本の文化財保護制度」「文化遺産の記録法」「遺物の保存科学」など

**実習**  
「脆弱遺物の取り上げ」「遺物の実測」「博物館における展示手法」など

**臨地研修**  
平城宮跡、法隆寺、藤ノ木古墳、知恩院、大阪歴史博物館、九州国立博物館など

**報告・討議**  
研修生による自国の「文化遺産の現状と課題」についての報告と意見交換、「遺跡保護の課題」についての討議

# 文化遺産ワークショップ

アジア太平洋地域における文化遺産保護に携わる人材を養成するために現地に講師を派遣し、その地域の実情に合わせて行う実践的研修「文化遺産ワークショップ」。今年、バングラデシュの首都ダッカで開催しました。

バングラデシュには、15世紀前半の「ハゲルハットのモスク都市」、8世紀半ばから9世紀にかけての「バルブルの仏教寺院遺跡群」という二つの世界文化遺産をはじめ、国内の各地には、古代から中・近世にいたる仏教関係、イスラム関係、ヒンドゥー関係といった多種多様な遺跡が数多くあります。首都ダッカ市内にも、いまは博物館として活用されているアーサン・モンジール宮殿や修復整備されたラルパーク砦のような文化遺産があります。



開講式

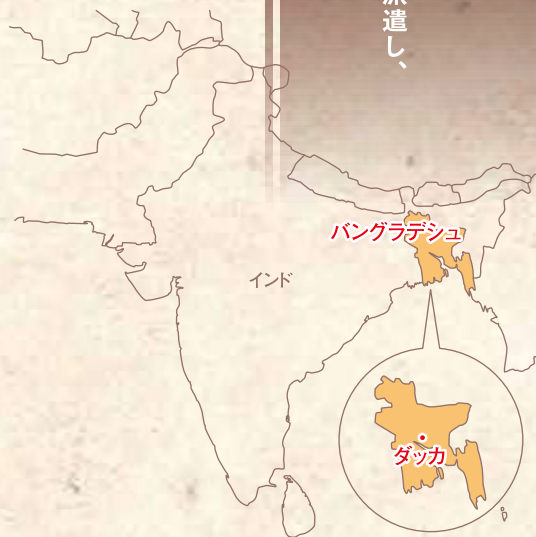
今回のワークショップは、バングラデシュ文化省考古局の要請をうけ「考古遺物の記録方法」をテーマに、1月11日から6日間の日程で、考古局のセミナー室を会場に開催しました。

研修には、バングラデシュの文化遺産保護部局や博物館などに所属し、文化遺産の調査・研究・保護に従事する15名が参加しました。

開講式では、ACCUC奈良事務所長、バングラデシュ考古局長とバングラデシュ文化大臣による主催者挨拶のほか、



講義風景



在バングラデシュ日本国大使館公使からもご挨拶をいただきました。

研修は、「土器実測概論」から始まりました。講師は奈良文化財研究所の加藤真二さん、榎原考古学研究所の鈴木一議さんと奈良市埋蔵文化財調査センターの安井宣也さんです。考古学における実測の必要性、土器の製作技法や観察する時の注意点についての講義がありました。

土器の実測実習に際しては、最初に講師が実測用具を用いて土器を測りながら用具の使い方や実測の要点を説明し、その後、研修生各自が、バングラデシュ国内の発掘で出土した土器を用いて実習しました。また、土器の文様を拓本でとることもしました。

最終日には、講師を代表して加藤真二さんから研修の総括と講評があり、その後、閉講式で研修生それぞれに修了証書が手渡されました。



拓本実習



土器実測実習

# 個人研修 バヌアツ

2014年7月31日から8月21日まで、バヌアツ共和国から2名の研修生を招き、「遺跡の調査・保存と管理活用」をテーマに研修を実施しました。



写真データ管理の実習

バヌアツ共和国は、大洋州にある大小80を超える火山島と環礁からなる国です。地震や自然災害も多く、これらの諸島に所在する文化遺産の現状を把握し保護等の対策を講じる必要が求められています。

研修では、このような現状をふまえ、バヌアツ共和国担当部局からの要請を



講義風景

うけ、広範囲に分布する遺跡の調査・記録法としてのGPS/GISデータの管理活用、遺物の管理・展示活用、地震と自然災害時の文化遺産の危機管理等に重点をおいて実施しました。

文化的景観や文化遺産マネージメントに関する講義に加え、発掘調査や遺物整理作業の現場での実践的な研修が



臨地研修(高島市針江地区)



斑鳩町文化財活用センター

あり、また、写真を使った文化遺産の記録方法とそのデータ管理についても実習を通して習得しました。

臨地研修で訪れた滋賀県高島市では、水辺の生活風景や風習を「文化的景観」として保存している取組みを学

びました。また、滋賀県立琵琶湖博物館では、琵琶湖に関する自然遺産・文化遺産、生活風習を総合的に展示しており、同じような環境を有する研修生にとっては、非常に興味深く感じられたようでした。

## 研修生からのメッセージ



マタニックさん

日本では学校で学ぶだけでなく、どこでも学ぶことができ、また、政府機関と地域社会との間に緊密なネットワークが構築されているということを知りました。有形無形の文化財や文化的景観など、文化遺産を法によって守ることの重要性を理解することができました。



シンジさん

今回の研修は、私にとって素晴らしい経験となりました。また、日本は先進国ですが、将来だけを見ているのではなく、過去も大切にしていることに感銘を受けました。バヌアツでは専門家がまだ少ないですが、この研修で得た知見をもとに文化面での基盤を築き、発展させていきたいと思います。

## カリキュラム(概要)

### 講義

「遺跡の記録と調査法」「遺物の整理と保管」  
「文化的景観の保全とその概要」  
「GPS/GISデータの管理・活用」など

### 実習

「遺物の記録方法」

### 臨地研修

東大寺、春日大社、法隆寺、琵琶湖博物館、国立民族学博物館など



講義風景

# 個人研修 ブータン

2014年11月11日から12月11日まで、ブータン王国から3名の研修生を招き、「写真による文化遺産の記録」をテーマに研修を実施しました。

「幸福の王国」として知られるようになったブータン王国は、インドと中国にはさまれたチベット仏教を国教とした王国で、独自の伝統文化を維持・継承しながら近代化を進めています。

近年、その伝統を引き継ぐ有形・



無形の文化遺産が急速に変容・崩壊する危険性が指摘されており、特に、伝統的民家や寺院等の建造物、あるいは経典等の文書資料等の保存について、早急な対策が求められています。

このたびの研修は、このような現状を踏まえ、また、ブータン王国文化省からの要請をうけ、写真による文化遺産の記録とデジタルデータの管理・活用について広く知識と技術を習得することを目的に実施しました。

カリキュラムは、精緻な記録が必要とされる「文化財写真」の基礎知識の講義、室内・屋外での写真撮影実習、そのデータの保存・活用法等、実習を中心としました。また、地域によって様々な伝統的織物があるブータン王国の実情に鑑み、織物等の伝世品の撮影に関する講義もとり入れました。長谷寺での臨地研修では、当該国の寺院壁画の記録を勘案して暗所での壁画撮影実習を行い、限られた条件下での撮影法を学びました。



開講式



臨地研修(長谷寺)

## 研修生からのメッセージ



キンレイさん

写真を学んでいく中で、写真が文化財記録にとって重要であり、よい写真は記録だけでなく、普及、教育など様々な目的にも活用できるということを知りました。また、写真を撮影する方法や技術だけでなく、文化財写真の価値を学べましたし、ものを「うつす」という意味を理解することもできました。



レキさん

この研修では、写真のすべてを学ぶことはできませんでしたが、私の仕事に直接役立つことを多く学ぶことができました。国に帰ってから、今回の研修で得た知識を広く伝え、役立てていきたいと思っています。また、写真の世界はどんどん発展していくので、これからも学び続けていきたいと思っています。



ブンソさん

今回の研修に参加して、写真による文化財の記録は、将来のためにも非常に大切なこととなりました。帰国してからも、奈良で得た知識や経験を大切にしたいと思っています。私にとっ、これは始まりで、これからも学び続けていきたいと思っています。また、日本の色々な地域の人々に会うことができたのも、貴重な経験になりました。

## カリキュラム(概要)

### 講義

「文化財写真概論」「デジタル写真記録概論」「写真の評価と判定」「文化遺産の写真記録とデータ管理システム」など

### 実習

「デジタル写真撮影」「デジタル写真処理」「写真の仕上げと誌面構成」

### 臨地研修

平城宮跡、法隆寺、東大寺、奈良国立博物館、神戸市重伝建地区、知恩院、東京大学史料編纂所など

## 国際会議

「木造建造物の保存理念を再考するー木造建造物のある文化的景観と地域社会ー」をテーマに、2014年12月16日～12月18日、中国・上海市で開催しました。



会議風景

文化遺産保護に携わる各国の専門家が中国・上海に集まり、国際会議を開催しました。この国際会議は「木造建造物の保存理念を再考する」をテーマとして複数年継続して開催することを予定したもので、今年は2年目になります。

前回、奈良で開催した時は、木造建造物の修理手法や保存理念がテーマの中心でしたが、今回は、町並みや集落といった建物群とそれを取り巻く周辺環境、さらには、こうした景観を保存していくうえで重要な役割を果たす地域社会の関わりをとりあげました。

会議は基調講演で始まりました。最初は、イクロム・プロジェクトマネージャーのガミニ・ウイジェスリヤ氏が、木造文化遺産と文化的景観、地域社会について、



同里古鎮・退思園

続いて中国から同済大学建築都市計画学部教授の韓鋒(ハンフン)氏が、文化的景観の真正性と完全性について、そして日本からは文化庁記念物課参事官の村田健一氏が、保存・修復における伝統的な技術と材料について講演されました。

第一日目午後と三日目の午前には、参加各国(日本、中国、韓国、インド、インドネシア、リトアニア、スリランカ)から、それぞれの国における伝統的建造物の修復・活用、町並みや集落と文化的景観の関わり、保存に対する地域住民の関わり方などについて事例報告が行われました。

会議二日目のエクスカージョンでは、蘇州近郊の同里古鎮と蘇州の平江路を訪ねました。

蘇州の東、呉江にある同里古鎮は水郷の町で、伝統的家屋を修復・整備し、店舗として利用する等、その活用を図っています。蘇州の平江路は、水路とそれに沿った町並みが平江歴史街区として指定されており、伝統的家屋の内装に手を加え旅館、美術館等として活用していました。

最終日、午後の総合討議では、基調講演と事例報告を受け、各国の現状と課題をふまえて、討議が行われました。特に会議サブタイトルにある「文化的景観」と「地域社会」をめぐって、活発な議論が交わされました。



蘇州・平江歴史街区

# 文化遺産 国際セミナー

2015年2月7日、ならまちセンター・市民ホールで、文化遺産国際セミナー「木が伝える奈良の文化財」を開催しました。



ACCU奈良事務所では、より多くの方々に文化遺産の大切さについて理解を深めていただきたいと思います、これまで、毎年、文化遺産国際セミナーを開催してきました。

奈良県内には寺社をはじめとする数多くの伝統的な木造建造物がありますが、今回は、こうした建物を支えてきた「木の文化」を取り上げ、各分野の専門家からお話しをしていただきました。

講演の最初は、清光林業株式会社岡橋清元さんによる「吉野の森を育てる―仙人の知恵と技術―」です。吉野地域特有の育林方法と山守制度による山林経営、森林管理が続けられてきた林業の歴史を紹介していただき、さらに、これからの林業にとって、森を育てるためにも、また、優良な木材として活用するためにも、自然と調和した路網(道)整備の必要性についてお話していただきました。

続いての講演は、元興寺住職辻村泰善さんによる「文化財保存にみる元興寺の“こころ”」です。元興寺には、いまも創建当初の瓦が屋根に使われており、また、建物の部材も残っています。こうした文化財を守り伝えるために、



岡橋清元氏



辻村泰善氏

どのように取り組んできたか、ユーモアを交えながらお話していただきました。

休憩の後は、講演された方々に瀧川寺社建築の瀧川昭雄さんも加わっていただき、座談会「木が伝える奈良の文化財」です。コーディネーターはACCUN奈良事務所長です。冒頭、瀧川さんから大工の立場から技術を伝承するための人材育成の重要性についてお話がありました。その後、優良な木材となる木を育てる、伝統的な技術で木を加工する、文化財として守り伝える、それぞれの立場から「木の文化」を受け継いでいくための課題について意見が交わされました。

また、当日会場では、瀧川寺社建築の協力を得て、継手・仕口の資料や釘、伝統的な工具などを展示しました。セミナー終了後も多くの方が手に取って、古代の技術を体感していました。



座談会

## 世界遺産教室

奈良県内には、日本で18ある世界遺産の内の3つがあります。ACCUN奈良事務所では、それら世界遺産をはじめとする文化遺産の身近で暮らす奈良県内の高校生を対象に、世界遺産についてよりよく知っていただくとともに、文化遺産の重要性について理解を深めていただく機会として「世界遺産教室」を開催しています。

今年度も、世界遺産に造詣の深いお二人、久保美智代さんと小野以秩子さんに講師をお願いし、奈良県内の8校で実施しました。講師の方々には、映像とクイズを交え、各国の文化遺産に関する話題をふんだんに盛り込んで講義を進めていただきました。また、世界遺産条約ができた経緯にはじまり、危機的な状況になっている遺産、さらには、人類の過ちを示す負の遺産にまで話は及びました。

今年も、生徒のみなさんからは、とても分かりやすかった、世界遺産についてもっと知りたくなった、との感想が寄せられました。



# バングラデシュの文化遺産



オールド・ダッカにあるラルバグ砦は、17世紀後半に建設が始まったムガル帝国の城(砦)です。発掘調査が行われ、当時の現存建造物と復原建造物を中心に整備されています。もとは南に川が流れており、そこを通る船を監視する施設も残っています。表紙の写真は、17世紀後半、ここで亡くなった総督の娘ビビ・パリの墓を祀った廟で、ラルバグ砦を構成する主要な建物の一つです。

## ✿✿ ラルバグ砦

ラルバグ砦には、未調査地区もありますが、一般に公開されています。夜には音と光を用いてダッカの歴史についての解説が行われます。また、砦南西に位置する楼閣風の建物はバングラデシュ100タカ紙幣の図案に用いられたこともあります。



## ✿✿ アーサン・モンジール宮殿

ブリガンガ川北岸に建つ、ダッカを治めていたナワブ一族の宮殿です。荒廃していた宮殿を修復し、博物館として公開しています。正面には、2階から直接地上にいたる壮大な階段があり、川の港へとつながっています。外壁の色から、ピンク・パレスとも呼ばれています。



公益財団法人  
ユネスコ・アジア文化センター  
文化遺産保護協力事務所

Cultural Heritage Protection Cooperation Office, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

〒630-8113 奈良市法蓮町 757(奈良県奈良総合庁舎1階)

TEL 0742-20-5001

FAX 0742-20-5701

URL <http://www.nara.accu.or.jp>

E-mail [nara@accu.or.jp](mailto:nara@accu.or.jp)

### 交通アクセス

- 近鉄奈良駅から
  - 徒歩約20分
  - バス13番のりばから「西大寺駅行き」または「航空自衛隊行き」で、佐保小学校下車すぐ

- JR 奈良駅から
  - 徒歩約20分
  - バス西口5番のりばから「西大寺駅行き」または「航空自衛隊行き」で、佐保小学校下車すぐ